

白岡ニュータウン自治会だより

挨拶と花と緑の
明るいニュータウン

新春号

平成17年1月15日

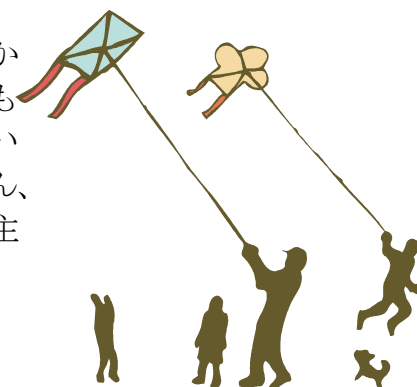
白岡ニュータウン自治会発行
会長 森田 貴美子



【新年挨拶】 「地域」と「個人」

自治会長 森田 貴美子

会員、並びにご家族の皆様、明けましておめでとうございます。
 昨年は、厳しい社会情勢と、国内外の暗いニュース、ことに日本各地からの度重なる災害報道に連日心を痛めました。きょう、この地でいつもと変わらぬ穏やかな新年をともに迎えられた幸せをあらためて感じています。自治会活動は、各担当部の熱心な工夫により、各行事はもちろん、①班の適正戸数見直しと少数戸班の解消、②高齢班長への配慮、③自主防犯パトロール開始、④ルネ・グランテラスの高層住宅防災訓練実施、⑤自治会活動支援ボランティアのスタート、⑥3丁目集会所の大改修、さらに⑦県の「自治活動団体表彰優秀賞」受賞などにも着実に新しい足跡を残すことが出来ました。引き続き「組織、規則／規約の見直し」、「地上デジタル放送対応準備」などの難題にも取り組んでいますが、担当部役員・班長、専門知識を要する分野の応援を快く引き受けて下さった心強いボランティアの皆様にご心より感謝しています。



さて、昨年のアンケート（CATV 関連、住環境関連）集計結果は、この地域独自のケーブルシステムと、緑化規約による街並み維持を大多数の会員が支持するものでした。ことに後者は個人住宅1区画への規約適用にとどまらず、地域全体の街並み維持に合意して移り住んできた会員の意向だと解釈されます。規約による制約を解き、自由裁量を拡大することは、一見、物分りのよい方法と思われるがちですが、判断のよりどころのない場面で個々の主張がぶつかり合った時の煩雑さは、地域にさらに深刻な問題を生むことが懸念されます。今後予想される住宅の建替え増加を前に、「会員個々の異なる事情／要望」を把握しつつも、「地域として維持すべき方向」を見逃さない姿勢が問われています。

また、昨年の災害など緊急事態発生時には地域全体の結束力が鍵になった場面を見聞きし、「不意の災害に対する不断の準備」を、地域の急務と実感した会員も多いはずで、ことに「災害弱者」の事前把握は時に個人事情に踏み込むことになることを理由にして、とかく消極的になりがちですが、「高齢会員の増加」「ケガをすれば、誰もが弱者」という観点に立ち、後悔のない地域協力を整備する時が来ているように思います。

最後になりましたが、幸いにも新しくスタートしたボランティア制度を通じて、「パソコン支援」、「防犯パトロール」、「盆踊りの人手不足」に多くの協力申し出をいただきました。心より感謝申し上げますとともに、次年度も引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

《歴代自治会会長新春座談会》

出席者 松岡 卓巳 (1991年—1994年)
河村 修司 (1995年—1998年)
岡田 光且 (1999年—2002年)
森田 貴美子 (2003年—現)
司会 菊地 忠晴 (広報部副部長)



(敬称略)

司会 本日は、歴代自治会長さんたちにお集まりいただき、これまでの自治会のあゆみについてお話しいただきたいと思います。初代会長甘利 健さん(故人)の後、91年から94年にかけて会長を務められた松岡さんに在任中の記憶に残る活動や苦労話等をお願いします。

松岡 私が会長になった当時は、金融機関がなく大変不便でした。そこで町に働きかけて新白岡駅の階段下に埼玉(現埼玉りそな)の現金自動支払機の設置を実現しました。しかし、機械が古く、支払い金がすぐなくなってしまうことも多く(笑い)、新しい機械に交換しました。続いて住友銀行(現三井住友)の現金自動支払機も導入され、郵便局についても、総合地所に働きかけ、用地を確保し開局致しました。今から思うと大変苦労したね。それと白岡東小学校建設のお願いのために、夜の10時頃まで交渉が続くことがたびたびありました。

森田 自治会組織に各部署が設置されたのも松岡さんの時期ではないでしょうか？

松岡 そう、第5回総会からだったね。

司会 それでは次に、95年から98年までの4年間会長を務めた河村さんをお願いします。

河村 きょうに備えて久しぶりに古い記録を取り出してきました。(沢山の書類を紹介)前会長の路線を継続する中で、間もなく2丁目に13階建てのマンション建設計画が持ち上がり、会員間に反対の署名運動が展開されました。連日の交渉など、大変な時期でしたが、会員間に結束力もできましたね。一方、神戸淡路大震災から得た教訓から、「防災要綱」をつくっては、と町から働きかけがあり、90万円の補助金を得て、白岡町では、最大かつ最初の自主防災組織が発足しました。また、防災・防犯の面から、私の班では近隣同士で連絡先を共有したり、お互いを知ることを目的に親睦会を開きました。この動きは、自治会全体に広がり「班会議」として定着したんですよ。それから、2丁目集会所に自治会事務局を併設し、窓口が移って……。なお、今後も確定申告相談のボランティアを続けて、地域の方のお役に立てたらと思っています。

森田 現在は、実施率はまだ全体の3、4割。もっと多くの班に広がってほしいものです。緊急時連絡先を密封して、班長が管理する方式を採用している街区も出てきました。

司会 それでは、99年から02年の岡田さんよろしくをお願いします。

岡田 私が会長になった当時の自治会は、総合地所への管理委託をやめ、自立して運営にあたっていました。私は会長を引き受けるにあたって、役員、住民がひとつにまとまるにはスローガンが必要と思い、「挨拶と花と緑の明るいニュータウン」を掲げ、ともに行動し、お互いコミュニケーションをはかれるよう提唱しました。それから、皆さんも積極的に花を植え、緑を維持する活動に参加してくれました。この街

に来る方々にはいつも大変美しい街だとほめられます。役員会議にパソコンを導入し、メールで連絡や話し合いをすることで会議の効率化を図りました。また、公園にバリアフリーの設置を町に要望しましたが、予算が少ないため、まだ充分ではありません。さらに、CATVを利用して自主放送をスタートしました。自治会の回覧板は、見る時間に限りがあつて、家族全員が目を通すことができませんが、テレビならば、好きな時間に見ることができますので、自治会活動への関心が高まると思い始めたものです。

司会 岡田さんが立ち上げた自主放送は、私たち現広報部も引き続き努力し、このたび県のコンクールで優秀賞をいただきました。それでは、03年から現在まで会長を務めている森田さん、今後の課題も含めてよろしくお願いします。

森田 私は、皆さん先輩からの路線を引き継ぎ、今や1,100戸の大世帯となりました。ここにきて、このまま引き継ぐ意味のあるものと、見直しをするものの吟味に努力している最中です。特に時代の変化や、価値観の多様化する中、これまであまり問題にならなかったことも起きています。かつて承諾し合った規則規約、特にこの地域独自の緑化規約の維持と見直しには大変苦勞しています。建て直しにあたって近隣住人が理解し合える住環境維持は今後の大きな課題です。

岡田 私の任期中にも、二段植栽維持を呼びかけて、変更時の手続きをはっきりさせたね。

河村 緑化規約等については、不動産の路線価格等に重大な影響がありますので会員の皆さんもよく考えてほしいことですよ。

松岡 白岡町の70歳以上の高齢者が1400名、うち新白岡エリアだけでも100名の方が住んでいる、災害時の弱者援助をどうするか、各街区毎に十分な情報交換して把握に努めていただきたいと思いますね。

岡田 高齢化については、自治会活動においてもなんらかの対応をしていかなければいけませんね。これからは行事等に支障が生じる可能性があります。

松岡 新潟中越地震時では、水の確保が大変問題になりました。飲料水はなんとか確保できたようですが、トイレ用の水が不足して大変苦勞したようです。自治会として井戸水がある高岩地区の皆さんに協力を得る体制も考えるとよいでしょう。

森田 災害時の弱者把握については、今年度の班会議課題としてスタートしたところです。間もなく自治会創立20周年も迎えます。その節は自治会活動記録については是非ご協力をお願いします。

司会 長時間ありがとうございました、新会員にとっては貴重な経緯を知ることが出来ました。今後共自治会活動へのアドバイスをよろしくお願いします。



(写真左から森田さん、松岡さん、河村さん、岡田さん)

《デジタルテレビ/アンケート結果について》

デジタル対応検討委員会
広報担当 菊地 忠晴

新年明けましておめでとうございます。

日常生活に不可欠なテレビ放送。そして、その電波の大きな変更が当地域でも始まる年になりました。いよいよ本年12月より地上デジタルテレビ放送の電波が当地域にも届くようになります。それに対応するため、デジタル対応検討委員会では昨年6月に発足後、数々の活動をし、その都度自治会だより、2ch自治会放送等を通じて報告させていただきました。

さて、昨年10月には全戸対象のアンケート調査にご協力下さいまして有難うございます。その調査結果を以下かいつまんで、ご報告いたしますと同時に今後の活動指針にさせていただきます。

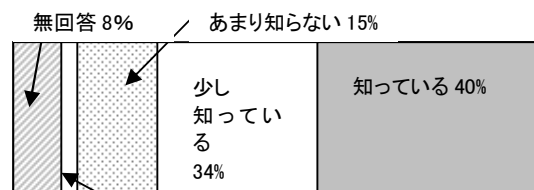
1、回答状況

調査戸数 939戸、回収戸数 617戸、
回収率 66%でした。



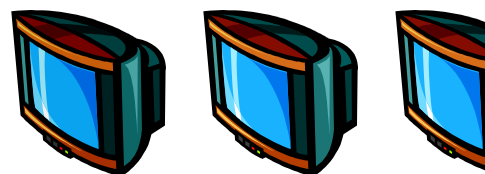
2、デジタル放送の知識度について

知っている40%、少し知っている34%、あまり知らない15%、知らない3%、無回答8%でした。多少とも知識のある方が74%ですので以下のデータはかなり信頼性の高いものと判断できます。



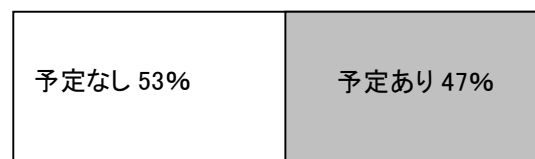
3、テレビの保有台数について

合計1,628台で1戸当り平均2.6台です。詳細に見ますと、居間に一家の中心のテレビを1台置き、その他の部屋に更に1~2台設置しているという平均的な家庭像が見えます。その内、デジタルテレビは119台で、まだ5戸に1台の普及状態です。



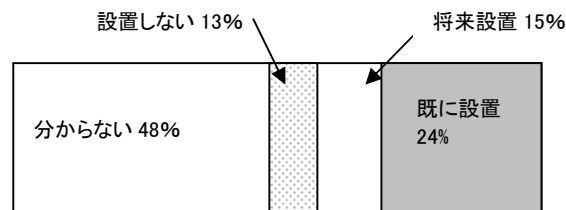
4、デジタル化への対応予定について

既に何らかの予定が有るのは47%で、予定無しは53%でした。全体的には、まだ先のことなので今すぐには考えなくても良いと、様子を見ているようです。予定有りでは、2004~2006年に35%、2007~2011年に50%、2011年以降は15%の予定を立てていますが、デジタルテレビ購入は78%、チューナ対応は22%で、2011年に近づくほどチューナ対応は減るようです。ここにも最初は応急的にチューナで対応しておこうと言う様子見も伺えます。



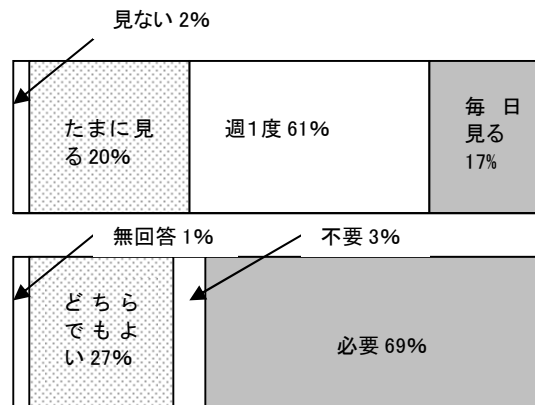
5、戸別BS/CSアンテナについて

既に戸別アンテナを設置しているのは146戸で全体の24%です。将来設置予定は15%、設置しないのは13%、分からないのは48%でした。これらの数字だけから単純に将来を推測することは難しいですが、これから綺麗なハイビジョンテレビが普及する事も考え合わせると設置戸数が60%を超える可能性は充分あります。また、現在設置している73%は一部屋にしか配線していませんが、将来設置する予定の61%はどの部屋でも見られるようにしたいと考えています。その方々は各戸のブースターを交換するときにBSにも対応する性能のブースターにしておくといいでしょう。



6、自治会放送(2ch)について

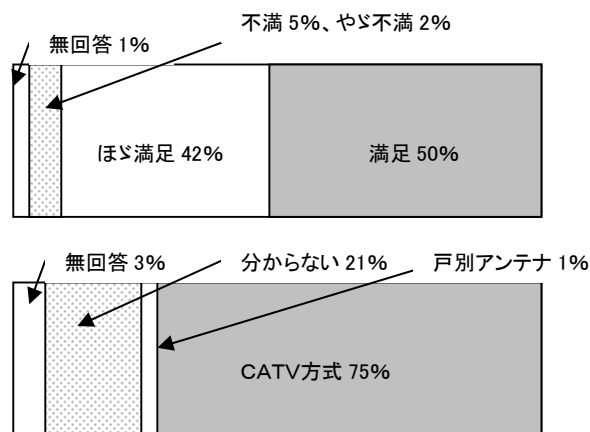
視聴状況は、毎日見るは17%、週一度は61%、たまに見るは20%、見ないが2%でした。この数字から78%は2chをよく見ていると言えるでしょう。一方、「たまに見る」理由で圧倒的に多いのは「定期的に見る習慣がなく必要なときだけ見る」でしたが、こういった方々も情報の必要性は感じておられる様子でした。次いで、「仕事等で忙しくて見る閑がない」方や「テレビに2chを設定出来ない」方々もありました。2chの



必要性では、必要69%、不要3%、どちらでもよい27%、無回答1%でした。必要な理由の大多数は「地域、自治会の情報を早く共有できる」で、特に「生垣消毒、ゴミクリーン、資源回収、行事、お知らせ等の確認」と「事故、事件、災害、防犯、緊急連絡等の情報伝達」に便利で役立つと言うご意見が多く見受けられました。また、「回覧板よりリアルタイムで早く、回覧板で見ていると忘れてたフォローできるので良い」と言うご意見も多い反面、不要な理由としては「回覧板で充分」と言う方々が多かったのも事実です。これらのご意見は今後の広報活動にも生かしていきたいと思えます。

7、CATVについて

自治会で運営している現在のCATVについては、満足が50%、ほぼ満足は42%、やゝ不満5%、不満2%、無回答1%でした。満足とほぼ満足を合わせると92%となり、圧倒的にCATVを肯定されている方が多いことが分かりました。一方、やゝ不満か不満である理由の多くが商業CATV会社のものとの比較、或いは同等のサービスを望まれていました。しかし、桁外れに高い視聴料で配信している商業CATV会社も、まだ当地域には進出計画すらなく、これは現段階ではいたし方のないことです。また、映りが悪くなる等のトラブル、故障発生時の対処についての不満もあり、それは今後の検討を進める上でも充分配慮していく必要があることだと思います。最後に、これからの地上デジタルテレビ放送も現在と同じCATV方式が良いは75%、戸別にアンテナをあげるは1%、分からないは21%、無回答は3%でした。



8、質問について

15名の方々からご質問がありましたが、それ等については個々に回答させていただきました。但し、次の件だけは本人のご要望により、この場で回答させていただきます。

質問:CATV方式にBSデジタル放送を追加した場合、共同設備費用の増額はいくらですか？

回答:光ケーブルを配線する必要があり、総額数億円単位の金額になります、したがってBSデジタルを受信する場合は戸別にパラボアンテナ設置が一番経済的と考えます。

以上のアンケート結果を踏まえて当委員会では今後、CATV方式でデジタル対応する方向で検討を進め、本年の通常総会に向けて結果をまとめていく予定です。そして、順調に推移しますと12月のデジタル電波到来時には各戸への配信も可能となり、紅白歌合戦の楽しみ方も増すことでしょう。

以上

《我が街「白岡ニュータウン」》

昭和62年5月に最初の入居があってから今年で19年目に入りました。そこで街の成り立ちを振り返り、今後の発展を展望してみたいと思います。

ニュータウンの開発主体である総合地所白岡ニュータウン販売センターの6代目所長の藤嶋さんに伺った話を中心に纏めてみましょう。

首都圏40キロ圏で駅前であり戸建1000戸を超える住宅開発は当ニュータウンが平成以後では唯一のケースだそうです。これが可能となった要因は、①首都圏の住宅需要が大きく住宅供給が強く求められていたこと、②ニュータウン50ヘクタールと周辺開発地域60ヘクタールの計110ヘクタールの土地が確保できたこと、③昭和62年に国鉄最後の新駅「新白岡駅」の新設、などがあげられます。

このあたりは、徳川時代には荒地で沼もあったようです。幕府が647石の米地域にし、新井白石が当時の殿様でした。第一次世界大戦時には東京への野菜供給基地として開墾されましたが、第二次世界大戦時には手間がかかる土地として見放され、開発が遅れておりました。それが纏まった土地を確保できた幸運につながったのでしょうか。県政が農業優先で工場誘致などに消極的だったことも住宅適地として残った要因かもしれません。

旧安宅産業が昭和34年から土地の買収を開始し、43年に総合地所が安宅産業の住宅部を買収、52年に米ミシガン州の分譲地を参考にして宅地開発計画が策定されました。市街化区域として設定地域となりましたが地域内には400名以上の地主がおり、区画整理が進まなかったり、バブルの崩壊に直面したりで開発計画がかなり後倒しになってきたそうです。苦難は多かったですが、結果的にゆっくりとした街づくりができたのかも知れません。

新白岡駅の新設も住宅地としての価値を高めることになり、大きな発展の原動力となったことは間違いありません。

これからの展望も明るく、野牛地区も含めて大規模で整然とした住宅地としての期待がもてそうです。ニュータウン内の戸建はあと6年で300戸増え、区画整理地内のニュータウン以外の住宅も含めると増加戸建は400戸に達する予定です。その他マンションの計画もいくつかあり、土地も確保済みだそうです。最終的には1万8000人の人口と現在の約4倍の規模の街になる見通しです。

良質な住宅地のため、周辺地域に比べてやや値段が高いせいか比較的ハイソサエティーだともいわれています。自治会活動も他に例をみない活性と組織を維持しているとの評価もあります。

ここまで作り上げてきた先人の遺産をより発展させ、日本のモデルとなるような街づくりが続くことを期待しましょう。



取材協力頂いた総合地所:藤嶋さん(左)と広報部:京野部長(右)

(広報部/中村博文 杉山一弥 京野久也)

《新白岡は若い街》

わが国では少子・高齢化、人口減少がいろいろな面で大きな課題となっております。その観点から白岡ニュータウンの街の姿を人口から覗いてみましょう。

新白岡（ほとんどがニュータウン）の人口は平成16年3月末現在4,651人で、男女約半々です。100歳以上の方も2人おられます。

平均年齢は37.7歳で、白岡町の41.0歳（全国もほぼ同じ）に比べてかなり若い街です。

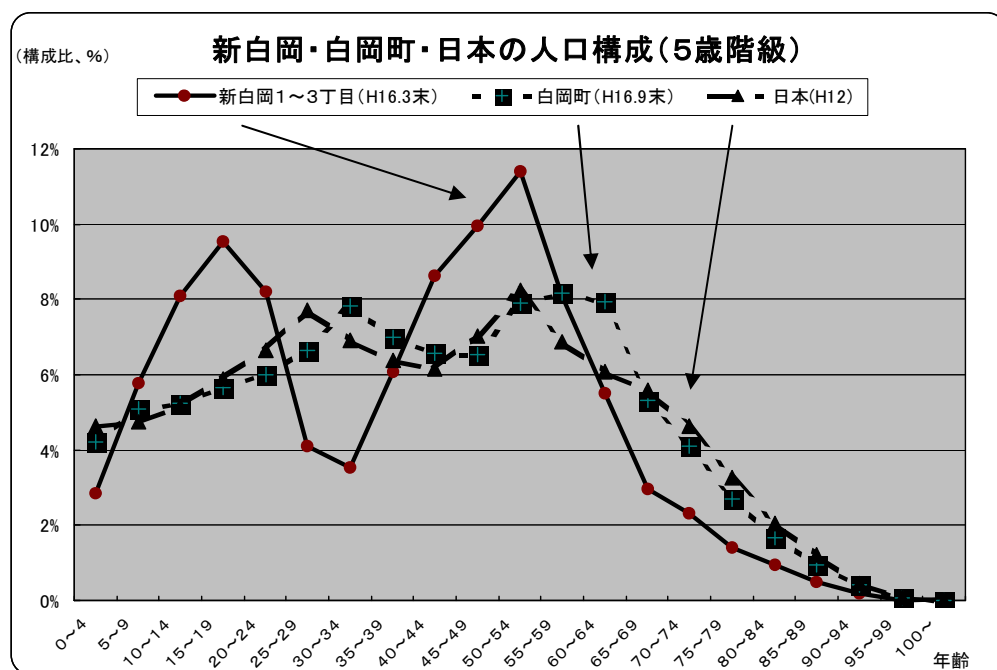
年齢別に見てみると大きな特徴がみられます。40歳～54歳の人口が全体の3割と異常に多く、その子供世代に相当する5歳～24歳が全国平均や白岡町に比べて格段に多い二つの大きな山があります。その理由は、新しい街として急に人口流入があったためにその時の住宅購入層が極端に多くなったことによると考えられます。

それに反して25歳～34歳と4歳以下が少なくなっております。これは55歳以上の世帯の子供世代が親元から離れて独立していったためと思われる。一部には親の高齢化に伴い戻ってくる傾向もあるそうですが、ニュータウンは2世帯住宅を意識してなかったためかもしれません。4歳以下はその子供の層に相当します。

60歳以上の比率が少し低いのは50歳前後の比率が極端に高いため高齢者が少ないせいではありません。

これからはどうなるでしょうか。30歳前後の層は世代交代で戻ってくる人も増えるでしょうし、今後の住宅購入層になるので増加するでしょう。10歳～24歳の年齢層は今後親離れ世代に突入して構成比は減少すると予想されます。

しかし40歳～54歳の層はそのまま多数を維持していく可能性が高いと考えられます。そのため、10年後にはこの街はかなり高齢化が進むとみられます。とは申しまして新規流入で壮年層の増加も大きいので極端に高齢者の多い街ともならず、年齢のバランスのとれた街に発展していくと思われます。



新白岡は現状においてもソフト面でもハード面でも生活インフラの整っている街ですが、今後も計画的な開発が続くため生活環境が良好な住宅地としての発展が期待されます。

(広報部/福永 肇)

《餅つき&青空市を開催して》

自治会総務部

今年の青空市は台風27号の影響による「暴れん坊将軍」ならぬ「暴れん坊低気圧」が通過したことにより12月初旬でありながら気温が25度の夏日となるなど近年にない印象的なものになりました。天気予報では前日の夕刻より当日未明にかけて暴風を伴う大雨が予想されていたので、4日午前より正副会長と役員が集まり断続的に青空市の開催に向けての話し合いがおこなわれました。結論的には、多くの会員の皆様が楽しみにしていることを勘案して開始時間の1時間30分繰り延べと3丁目の集会所を有効に利用しての開催と決定し、午後より班長の皆さん方と雨対策を講じながらの準備に取り掛かりました。

当日は午前9時の準備開始時間には雨もあがり好天が予想されたので、昨日の決定を一転してりんご販売、フリーマーケットを例年どおりさくら公園にて開催することにしました。開始時間前より多くの方々が集まり、販売開始となると大変な賑わいで活気に満ちた声が公園にこだましていました。餅つき会場では親子で声を合わせながら共同で作業をする姿が見られ、室内ではクリスマスリースの製作に多くの子供達が取り組んでいました。完成品はどれもこれもすばらしいもので個性的なものが多く見受けられました。

2丁目の会場では趣味の作品展示が催され、数多くの作品が出展されました。今年は照明設備やパネルなど工夫を凝らして鑑賞の皆さんに楽しんでいただけるようにした結果、作品がより一層輝いて見えました。



天候不順の中、多くのボランティアの皆さんと班長・役員の方々の多大なご協力をいただき青空市を成功裏に終了できましたことは誠に意義深いものであります。クリスマスリースのご指導をお願いした木村さんご一家を始めとして、青空市を盛り上げていただいたフリーマーケットの関係者ならびに作品を出展された皆様方に厚くお礼申し上げます。また、班長の皆様にご多大なお世話になりましたことを感謝いたします。ありがとうございました。

Q&A コーナー

Q1 昨年は、例年に比較して蚊が多く発生したように感じます。道路脇柵に薬剤注入などの対策を要望します。（3班からの報告あり）

A 発生源が公共部分との指摘があれば、具体的な地域調査後、生活環境課に通知し、対応要請します。また、個人敷地内の「水たまり」を無くすことも発生を押さえる有効対策です。空きビン、空き缶の放置、植木の受け皿、古タイヤ、竹の切り株等に水をためないことです。

卵（2～5日）、ポーフラ（1週間）、羽化・成虫（1～2ヶ月）のサイクル中で、水中の13日間が退治のチャンスです。また、敷地内の排水柵の穴はガムテープで塞いでください。（衛生部）



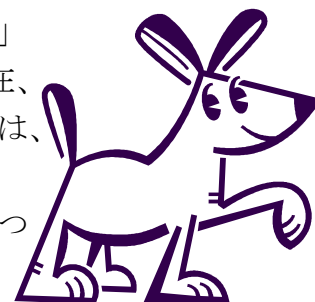
Q2 秋の「ゴミゼロクリーン」は11月の落葉時期にしてほしい。

A 当初11月を予定していたところ、「まごころ国体」開催に協力要請があり、急遽早まりました。今後は街路樹の落葉時期に合わせた「ゴミゼロクリーンデー」を計画します。さらに「メイン道路、公園の落ち葉清掃協力」を自治会として「全会員に呼びかける」ことも検討します。（衛生部）



Q3 ペットマナーはモラルの問題ではあるが、「罰金案」の検討は？

A 県の家庭動物に関する条例でも「勧告」「指導」とともに、最終的には「罰金」が制定されていますが、実例は昨年も1例とのこと。久喜市では、10月に独自の「罰金条例」がスタートし、遵守重点地区での「フン放置」はもちろん、「フン持ち帰り用具の不携帯」も対象です。現在、白岡町での予定はありませんし、1自治会の取り組みとしては、運営上の負担を考えれば困難のひとつに尽きるでしょう。「広報しらおか」12月号の特集記事によって、良い方向につながればと期待しています。（企画部）



Q4 月に1回のパトロールでは少ないのではないかと。

A 参加者数が増えれば、複数回のパトロールも可能になりますが、呼びかけにもかかわらず、参加者数は増えていません。曜日・時間帯を複数にしても、現在の登録ボランティア（34人）だけに負担がかかるのでは、長続きはしないでしょう。「犯罪防止に住民が関心を持っている地域だ」というアピールを継続することの意義を大切にして、もうしばらく様子を見たいと思います。なお、久喜警察による「警備員委託のパトロール」が昨年10月より始まり、東小児童の下校時間中心に週に2、3回巡回しています。（2月末までの予定）

（防犯部・地域防犯委員）



【行政区長 報告】 今回は会員からの質問についても回答します。

1. 2丁目集会所(センタープラザ)整備事業について

外壁の早期手入れを指摘され、来年度に改修工事（外壁塗装・屋根塗装）を予定し、補助金対象事業の申請を昨秋したところ、来年度予算状況が厳しくなることが予想されるため、急遽役場のご指導を受け、今年度内に改修工事を行うことと致しました。本件に伴う臨時支出については、役員会(12月11日)で了承を受け2CHでも案内済みです。（*総額約150万円の半額負担）

2. 1丁目集会所建設予定について

新入居者が増えている1丁目地区ですが、250戸を超える事が単独の行政区設定の条件です。集会所建設は、「リフレの杜」入居者状況により、今後数年中に建設のようです。1200～1300戸規模の自治会に備え、「収容人数」や「多目的対応機能のある設計」等を要請し、利用しやすい集会所実現のために一致して取り組みましょう。

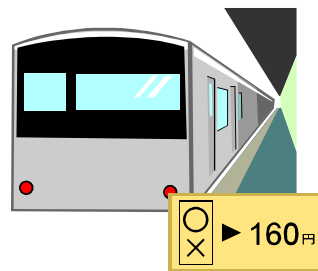


3. 行政連絡所について

当初用地の見直しを経て、新白岡駅交番後方(北部分)に設置される予定です。

4. 新白岡駅エレベーター、他について

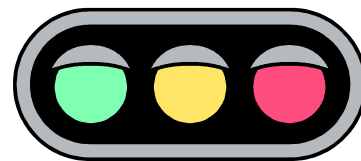
バリアフリー推進上から駅東、西口に「エレベーター」工事が進行中です。駅内エレベーターはJR予算により次年度工事となります。なお、昨年5月より「白岡町交通バリアフリー基本構想策定協議会」により、新白岡駅と当地区内の公共施設(例：老人福祉センター)間の経路の問題点を検討してきました。今後、バリアフリー基準に沿った整備にかかります。詳細については追って行政から通達されます。



5. 信号設置要望について

①最重要個所であるアンダーパスと駒形通りの交差点については、行政努力で設置の手ごたえがあるように聞いています。

②中央通り2信号間のカーブ地点設置要望については、一昨年の要請および、昨年夏のバリアフリー経路点検時で指摘もありましたが、昨今の県予算上からは困難と思われます。



6. 道路整備について

①緑道の排水改善、②メイン道路インターロックの凸凹修理は、当地域開発以来20年を迎えるのですから、当然の整備として予定されるものです。

通学路および高齢者の歩行に支障もあり、そのつど建設課に要請し、小修理をしてきましたが、要修理個所の一斉点検のうえ効率的な整備要請を考えたいと思います。一方、③中央通りの騒音防止のための舗装改善も周辺地域会員の切実な要請ですが、予算の壁は厳しいのが現状です。



編集後記

平成16年度広報部のメンバー全員からコメント



自治会だより「最終号」となりました、これまで多くの方にご協力いただきありがとうございます。お陰様で得がたい経験をさせていただきました。(麻生 好)



部員の皆さん優秀なかたばかりでお世話になりました。(植草 千代子)



2チャンネルの入力担当を仰せ付け、教わりながらの担当で1部を担う事が出来たか疑問が残ります。自宅での2CHを見る機会が多くなりました。(大坪 香樹)



広報部には、ためらわずに入ったのですが事前のイメージと違ったことが1つありました。それは取材という仕事が無かったこと。取材を通して自治会のいろいろな行事に参加出来ると考えていたのですがそれが出来なくて少々心残りです。(守山 豊)



一年間お世話になりました。(笠井 朋子)



広報部のメンバーの良い方たちと一緒に活動できて楽しかったです。パソコン少しでも出来る来年度の班長さん広報部へ来て下さい。(菊地 忠晴)

「2CH 狭いながらも楽しいキャンパス」編集には携わず、隔月に2CHの入力を担当、それなりの面白さを味わいました。(新井 松太郎)



近頃の広報の三種の神器は、パソコン、デジカメ、携帯電話です。アナログ人間の私は、出来る事を探すのに一苦勞の1年でした。(永島 則子)



もう正月も過ぎた。広報部の皆様、お役に立てずにごめんなさい(中村 博文)



1年間、ありがとうございました。(福永 肇)



2度目の広報部担当です。お陰さまで大変有意義な活動をさせて頂きまして有難うございました。昨年は、埼玉県民の日に自治会の「住民自治組織活動について」埼玉県知事から団体表彰を受けました。今年はさらに発展されますよう祈っております。(杉山 一弥)



会員によく読んでもらえる「自治会だより」と「自主放送(2チャンネル放送)」を目指して一年間改善してきましたが、いまだ改善途上です。これからも会員が力を合わせてより良いものにしていきたくと期待しております。(京野 久也)

